

令和 3 年 5 月 18 日現在

機関番号：14401

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2016～2020

課題番号：16H03692

研究課題名(和文)多様性社会のワーク・ファミリー・バランス スウェーデン・オランダ・ドイツの実践

研究課題名(英文) Work Family Balance in the Diversifying World: Practices in Sweden, the Netherlands, and Germany

研究代表者

高橋 美恵子 (Takahashi, Mieko)

大阪大学・言語文化研究科(言語社会専攻、日本語・日本文化専攻)・教授

研究者番号：90324871

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 12,700,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、スウェーデン、オランダ、ドイツにおいて、法定労働時間内の労働を通して個人と家族がウェルビーイングを享受できる社会環境が整備され、かつ多様で柔軟な生き方・働き方が選択できる就労システムが構築され、個人レベルでワーク・ファミリー・バランス(WFB)が実践されていることを実証的に考察した。いずれの国でも、WFB関連施策・制度は、従来の標準家族モデルの枠を超え、多様な家族形態を包摂している。また、働く人々の権利意識が高く、日常生活でケイパビリティを行使していること、子育て期の男女は子どもの育みを生活の中心に据え、家族との時間を可能な限り優先させていること、を各国の共通項として導き出した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究では、スウェーデン、オランダ、ドイツにおいて、ワーク・ファミリー・バランス(WFB)関連政策・制度が社会ならびに企業レベルで実践され、個人がWFBに向けたケイパビリティを行使してライフステージによって生き方・働き方を選択できる社会環境のあり方を実証的に解明した。さらにこれら3カ国におけるWFBをめぐる課題を導出した上で、日本のWFBの実現に向けた方策を提示し、子育て世代が、性別にかかわらず家庭生活を優先した働き方ができる仕組みづくりを日本の喫緊の課題として提起した点においても、学術的かつ社会的意義が見出せよう。

研究成果の概要(英文)： This study explored empirically how, the societal environment and employment system in Sweden, the Netherlands and Germany foster the well-being of individuals and their families through keeping within the legal working hours and the ability to choose diverse and flexible lifestyle and work pattern, which thus render possible the practice of work family balance (WFB) at the individual level.

In these three countries, WFB related policies and systems go beyond the conventional "standard" family model and encompass diverse family types, including same-sex couples and lone-parent families. Our analyses showed that the common denominators among these countries include a high awareness of working people of their rights and the exercise of their capability in daily lives, the placing of children at the center of their life by working women and men with young children, and the prioritization of time with families as much as possible.

研究分野：家族社会学

キーワード：ワーク・ファミリー・バランス スウェーデン・オランダ・ドイツ 多様な働き方 家族・ライフスタイルの多様性 ケイパビリティ

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

本研究チームは、スウェーデンをはじめとする EU 先進諸国との比較の観点から、日本の子育て世代の男女が、自己のケイパビリティ (capability) を生かして諸制度を活用し、職場と家庭領域で調整を行い、ワーク・ファミリー・バランス (WFB) を実現するために有効となる方策を探求してきた。これまでの研究では、主に父親の家事・育児参画という切り口から、WFB をめぐる課題を導出した。前プロジェクトにおいて、WFB の実現度が相対的に高いとされるスウェーデン、オランダ、ドイツに家族同伴で駐在員として赴任中もしくは赴任経験をもつ日本男性に焦点を当て、社会制度・職場風土の異なる環境での就労生活を通じ、WFB に関する彼らの認識と実践が変容したことを実証的に明らかにした。赴任地の職場で実践されている家族とプライベートを重視する働き方が、日本男性の選択肢を広げる要因として作用していた。まさにそこに日本の WFB の課題が潜んでいると想定できる。さらに、社会全体における WFB の実現を目指すためには、研究領域・対象をより重層的かつ複合的に拡張する必要がある。WFB は仕事と家庭の両立の実現というコンテキストからのみ捉えるのではなく、ディーセント・ワークとウェルビーイング (well-being) の実現を基本理念として、多様な働き方と家族形態・ライフスタイルの多様性を包摂する論考を展開していくことが重要であると考えた。

### 2. 研究の目的

ワーク・ファミリー・バランス (WFB) の実現度が相対的に高く、ジェンダー平等が進むスウェーデン、ワーク・シェアリングで知られるオランダ、労働時間が相対的に短いドイツにおける WFB に向けた取り組みと実践のあり方を、働き方の多様性、家族とライフスタイルの多様性、の二つの視座から実証的に考察することが本研究の主な目的である。

(1) テレワーク、フレックスワーク、パートタイム等の導入で働き方が多様化するなか、実際に個人が WFB の実現に向けたケイパビリティを行使して、家庭生活・プライベートの時間を確保し、ウェルビーイングを享受できる仕組みが、社会と企業レベルでいかに構築され、個人はそれをどのように認識し実践しているかを解明する。

(2) 家族とライフスタイルの多様性 (異性・同性カップル、ひとり親家族) に対応した WFB 実現への取り組みのあり方について考察する。ライフスタイルによって、WFB をめぐるケイパビリティや認識・実践に違いはあるかを検証する。労働市場の流動性と多元性が想定される 3 カ国のキャリアパスのメカニズムも理解した上で、男女とも仕事と家庭生活の双方を無理なく選択し、法定労働時間内の就労を通してウェルビーイングを享受できる、多様性に対応した WFB 社会の構築に向け、日本が今後取るべき方向性を探る。

### 3. 研究の方法

(1) スウェーデン、オランダ、ドイツにおける WFB 関連施策と研究動向を把握した上で、正規・非正規・フルタイム・パートタイムといった多様な働き方、ならびに異性カップル・ひとり親・同性カップルといった多様な家族形態・ライフスタイルを包摂する WFB のあり方を考察すべく、3 カ国調査の設計を行った。本研究班が国際比較の視点で構築した研究枠組みに基づき、個人の WFB に影響を与える要因を、社会支援 (マクロ)、職場 (メゾ)、家庭 (ミクロ) の 3 領域から捉え (表 1) 調査項目を策定した。

表1 個人のワーク・ファミリー・バランスに影響を与える要因

家庭領域（ミクロ）	職場領域（メゾ）	社会領域（マクロ）
本人の財（収入・学歴） 配偶者の財 カップル間の仕事・家事・ 育児分担 権力関係 家族・友人ネットワーク	企業文化 職場の風土 マネジメント 仕事の柔軟性・自己裁量度・ 安定性 職場の男女比 労働組合の影響	社会的権利 国の WLB / WFB 施策・各種休業 制度 地域ネットワーク 保育・ケアサービス 社会セクター

(2) 民間企業での取組みと実践に迫るべく、2016年8月～9月にスウェーデンとオランダ、2019年9月にはドイツにおいて、WFBに向けた取組みを積極的に進めている大企業ならびに中小企業（各国2社）の人事労務担当管理者を対象にヒアリング調査を実施した。

(3) 家族とライフスタイルの多様性ならびに働き方の多様性を包摂する WFB のあり方に迫るインタビュー調査の設計を目指し、各国の子育て世代の WFB の実態を把握すべく、2017年、3カ国語に翻訳した WEB アンケート調査を12歳未満の子どもがいる有配偶の男女を対象に実施した。スウェーデンでは39名（男性14、女性25）、オランダ47名（男性19、女性28）、ドイツで69名（男性50、女性19）から回答を得た。

(4) 上記 WEB アンケートで得られた知見を基に設計したインタビュー調査（Semi-structured：半構造的）を表2に示した通り、2017年～2019年、異性カップル世帯（子ども有・無）の男女、ひとり親世帯の男女、同性カップル世帯の男女を対象として実施した。対象者のリクルートは、現地コーディネータに委託した。全ての対象者には、インタビュー調査に先駆けて事前アンケート調査（WEB）を行い、個人の属性や家族状況等を把握しておいた。インタビューは各国語と日本語の通訳を介して行った（スウェーデン調査のみ本研究代表者が通訳を担った）。

表2 3カ国のインタビュー対象者の内訳、調査実施時期

	スウェーデン 2017年9月		オランダ 2018年9月、 2019年8月～9月		ドイツ 2019年8～9月	
	女性	男性	女性	男性	女性	男性
異性カップル世帯・子ども有	2	2	5	5	2	2
子ども無	1	1	1	1	1	1
ひとり親世帯・子ども有	1	1	1	1	2	1
同性カップル世帯・子ども有		1	1			
子ども無	1			1	1	1
合計（人数）	5	5	8	8	6	5

(5) 2020年において予期せぬコロナ禍に見舞われたことによる仕事と家庭生活への影響を捉えるべく、2017年～2019年調査のインタビュー協力者を対象として、2020年10月～12月に WEB アンケート調査を実施し、スウェーデン6名（対象者の配偶者含む）、オランダ16名、ドイツ11名の回答を得た。さらに現地コーディネータを通じて、3カ国のコロナ禍における生活支援等に関する情報を収集した。

#### 4. 研究成果

本研究は、スウェーデン、オランダ、ドイツにおいて、法定労働時間内の労働を通して個人と家族がウェルビーイングを享受できる社会環境が整備され、かつ多様で柔軟な生き方・働き方

が選択できる就労システムが構築され、個人レベルでワーク・ファミリー・バランスが実践されていることを実証的に考察した。いずれの国でも、WFB 関連施策・制度は、男女の法律婚カップルを標準とする従来の家族モデルの枠を超え、多様な家族形態を包摂している。また、働く人々の権利意識が高く、日常生活でケイパビリティを行使していること、子育て期の男女は子どもの育みを生活の中心に据え、家族との時間を可能な限り優先させていること、を各国の共通項として導き出した。本研究では、質的研究を通して得られた3カ国のWFBの実践をめぐるこれら共通項に加え、それぞれの国が抱える課題も明らかにした。各国のWFBをめぐる取組みと実践の特徴および課題は下記のように整理できる。

### (1) スウェーデン

スウェーデンは、1970年代に共働き・ケア分担社会へ移行し、「ワーク・ライフ・バランス」が先進諸国で共通課題となる前から、男女双方の「家庭と仕事の両立」というビジョンを掲げていた。働く人すべてのウェルビーイングを保障し、男女とも仕事も家庭も選択可能で、多様で柔軟な働き方ができる労働環境を整備している。公的保育制度は、複数の政策領域の連携による子ども政策の一環として整えられている。しかし、世界的にもジェンダー平等度の高い国の一つでありながら、子育て世代のワーク・ファミリー・コンフリクトの側面からみたジェンダー差、育児休業取得日数シェア率の男女不均衡(2020年の全取得日数のうち男性のシェア率は30.0%)と男女の生涯賃金格差、といった課題を孕んでいる。日本がさらにジェンダー平等なワーク・ファミリー・バランス社会の実現に向けた方策を考える上で、先を行くスウェーデンが直面しているこれらの課題は示唆に富む。

### (2) オランダ

オランダは、ワーク・ファミリー・バランスの実現度と人々の満足度が高く、子どもの幸福度も高い国として評価されてきた。それを可能にしているのは、ライフステージに合わせて労働時間を容易に変更できるパートタイム雇用の正規化政策、公的保育と家庭保育の組み合わせ政策、労働の時間帯や場所を自由に選択できる柔軟な働き方政策であるといえる。同国では、カップル世帯において、2人ともフルタイムでなくパートタイム雇用で働く「1.5モデル」を理念化して推奨してきたが、実際には、一人はフルタイム(多くは男性)、もう一人はパートタイム(多くは女性)で働いているケースが多い。上記のWFB関連政策が講じられる中、パートタイム就労における労働時間短縮幅の壁、育児休業中の所得保障の不十分さと復帰後のキャリア形成へのリスク、実労働時間が契約労働時間を超過する傾向、といった課題が立ちだかっている。

### (3) ドイツ

ドイツでは、1990年代後半以降、日本と同様に深刻な少子化問題を抱えていたが、21世紀に入り、国を挙げてWFB関連政策と取組みを行ったこともあり、合計特殊出生率は微増傾向にある。労働の規制緩和とともに生活保障を整備する雇用政策が進められ、個人の人生において、さまざまな労働(雇用労働、育児・ケア労働、ボランティア活動)と時間を可変的に分配できるようにする「労働未来論」(田中 2009)を基盤とした取組みが行われている。残業時間等を貯めておき休暇や早退などに活用できる労働時間口座制度を1980年代後半に導入したことも同国の特徴である。男女とも多様な働き方ができる制度が整備されているなか、育児休業取得のジェンダー差(2020年の受給者全体に占める父親の割合は24.8%)、公的保育の未整備および地域間格差、家事・育児時間のジェンダー差、といった課題に直面している。

本研究成果として得られた3カ国のワーク・ファミリー・バランスの実践と課題についての知見をコロナ禍の動向もあわせて整理した上で、日本の進むべき方向を提示する共著書を2021年度中に出版する予定である。

<引用文献>

田中洋子, 2009, 「ドイツにおけるワーク・ライフ・バランス」『ドイツにおける家族政策の展開とワーク・ライフ・バランス推進に関する調査研究報告書』子ども未来財団: 37-71.

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計14件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 6件）

1. 著者名 斧出節子	4. 巻 65
2. 論文標題 ドイツにおける子育て家族のワーク・ライフ・バランス ベルリンでのインタビュー調査から	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 京都華頂大学・華頂短期大学紀要	6. 最初と最後の頁 13-27
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高橋美恵子	4. 巻 71
2. 論文標題 スウェーデンにおける出生率の動向と家族政策の変遷 仕事と子育ての両立支援と格差是正の視点から	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 統計	6. 最初と最後の頁 4-11
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 善積京子	4. 巻 5
2. 論文標題 オランダのワーク・ファミリー・バランスの実践	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 追手門学院大学地域創造学部紀要	6. 最初と最後の頁 125-155
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 高橋美恵子	4. 巻 520
2. 論文標題 スウェーデンにおける仕事と育児の両立支援施策の現状 整備された労働環境と育児休業制度	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Business Labor Trend	6. 最初と最後の頁 27-33
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 善積京子	4. 巻 4
2. 論文標題 オランダのワーク・ファミリー・バランス	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 追手門学院大学地域創造学部紀要	6. 最初と最後の頁 101-133
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 善積京子	4. 巻 1045
2. 論文標題 父親との絆を大事にするスウェーデンの子育て	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 児童心理 子どもと家族	6. 最初と最後の頁 45-51
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高橋美恵子	4. 巻 197
2. 論文標題 第1章 スウェーデン	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 JILPT資料シリーズ 諸外国における育児休業制度等、仕事と育児の両立支援にかかる諸政策 スウェーデン、フランス、ドイツ、イギリス、アメリカ、韓国	6. 最初と最後の頁 17-33
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Mieko Takahashi, Saori Kamano, Tomoko Matsuda, Setsuko Onode and Kyoko Yoshizumi	4. 巻 28
2. 論文標題 Work-Family Balance of Families with Small Children: How to Achieve Gender Equality in Parenting	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 家族社会学研究	6. 最初と最後の頁 161-168
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.4234/jjoffamilysociology.28.161	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計12件（うち招待講演 7件 / うち国際学会 2件）

1. 発表者名 Mieko Takahashi
2. 発表標題 New horizons in the study of work life balance: Japan and Sweden in comparison
3. 学会等名 International Workshop on Changing Family Life and Nonstandard Work Schedulers (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 高橋美恵子
2. 発表標題 スウェーデンにみる社会参画と協働 心豊かな生活の実現を目指して
3. 学会等名 芦屋市明るい選挙推進協議会 (招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 斧出節子
2. 発表標題 男女が共に歩むこれからの日本～男女共同参画先進国との比較から～
3. 学会等名 井出町自然休養村管理センター (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 高橋美恵子
2. 発表標題 ワーク・ライフ・バランス研究の新たな地平 - 日瑞比較の視点から
3. 学会等名 STINT Workshop Stockholm University (国際学会)
4. 発表年 2018年



1. 発表者名 高橋美恵子
2. 発表標題 IT先進国スウェーデンにおける家族と子育て
3. 学会等名 シンポジウム「育児期親子のITとソーシャルメディア活用：日本、韓国、米国、スウェーデンの国際比較」お茶の水女子大学（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Mieko Takahashi
2. 発表標題 A Comparative Study of Child-rearing Environment and Childbearing Intentions: From a Capability Approach Perspective
3. 学会等名 日本人口学会第69回大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 高橋美恵子
2. 発表標題 北欧の自由なライフスタイル スウェーデンの日常
3. 学会等名 国際女性デー記念講演会、芦屋市男女共同参画センター事業（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 高橋美恵子
2. 発表標題 スウェーデンにみるワーク・ライフ・バランス 柔軟で多様な働き方の実践
3. 学会等名 日本弁護士連合会男女共同参画推進担当者連絡会議（招待講演）
4. 発表年 2016年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 北欧文化協会他(編)	4. 発行年 2017年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 650
3. 書名 北欧文化辞典	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	善積 京子 (Yoshizumi Kyoko)  (80123545)	追手門学院大学・地域創造学部・名誉教授  (34415)	
研究分担者	斧出 節子 (Onode Setsuko)  (80269745)	京都華頂大学・現代家政学部現代家政学科・教授  (34325)	
研究分担者	松田 智子 (Matsuda Tomoko)  (50250197)	佛教大学・社会学部・教授  (34314)	
研究分担者	釜野 さおり (Kamano Saori)  (20270415)	国立社会保障・人口問題研究所・人口動向研究部・第2室長  (82628)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
スウェーデン	Stockholm University			
オランダ	Erasmus University Rotterdam			
ドイツ	Berlin Father Center			